

(別紙資料)

(1) 剣道アニメ『鳥獣剣士』初公開!

日本のアニメは世界でもトップレベルにありますが、東京芸術大学美術学部油絵科卒業の名取祐一郎氏(25)は、これまでのアニメ映画やテレビアニメ技術とは違ったユニークな手法で制作を手がけてきました。国内や世界のコンクールで数々の賞を受けた新進気鋭の制作者です。「ポスト宮崎駿」の世界ともいわれます。

名取氏は小学校時代、剣道を体験したこともあって、全日本剣道選手権大会など多くの試合や国内道場での稽古を見学し、さらには、外国人がどのように剣道や居合道を稽古しているのかを確かめるため、北欧フィンランドやエストニアなどを訪れ、2年間構想を練ってきました。

EXPO ドームの最新技術のアストロビジョン大画面に、8月31日の『EXPO 剣道フェスティバル』で初公開される剣道アニメは各5分計15分の3幕物語です。題して『鳥獣剣士』。トラやツルたちが剣道を知り、面白がってやっているうち、やがて何かを考えるようになる、という展開です。

鳥羽僧正の「鳥獣戯画」のカエルやウサギたちのお相撲を思わせ、バックの四季折々の風景は、日本画の巨匠・狩野芳崖のような豪華繊細さです。剣道と日本画が合体した現代の日本文化が凝縮されており、「交剣知愛」「三世同堂」「稽古・鍛錬」「礼節と和」という剣道伝統の言葉の意味が、分かり易い映像となって、こどもや高齢者にもスッと理解されるでしょう。

(2) 剣道ミュージック公募決定!

全剣連は、かねてから剣道のテーマミュージックを模索していましたが、EXPOの公式参加行事開催を機会に一般大公募を試みました。佐藤真・東京藝大音楽学部作曲科教授を審査委員長とする審査委員会は、7月上旬に最優秀作曲賞として、海外でコンクール受賞多数のプロの作曲家、東京都在住・池田悟氏(44)の『剣士のパヴァーヌ』が選ばれました。「パヴァーヌ」とは、フランス語で「荘重な舞曲」という意味ですが、これは琵琶、琴などで演奏する邦楽なのです。池田氏が最初に手がけた本格的邦楽作品。「剣道の、とくに厳しさをイメージして作ってみました」と、応募の動機を話されています。邦楽器特有の静と動の転換が、人の胸に何事かを訴える素晴らしい曲です。また、国立音楽大学大学院生、橋本裕樹氏(23)の『糸-いと-』が佳作として1点選ばれました。弦楽四重奏の洋楽で、邦楽の最優秀作品とはまた趣の違う剣道のイメージが、審査委員の関心を引きました。

以上